

# EMERGENCY WATCH

No. 106 oct 2019

神戸こども初期急病センター

2019年9月  
受診者数  
2061人

## 疾患頻度

1. 急性上気道炎 597人
2. 感染性腸炎 269人
3. 喘息 194人
4. 咽頭炎 167人
5. 気管支炎 158人

RSウイルス感染症が8月23名から、9月53名へと急増しています。EW104号で特集をしておりますので是非ご覧下さい。インフルエンザが少しずつ流行りはじめています。お気をつけ下さい。

# EMERGENCY WATCH

## 特別連載 こどもの事故 part 7

消費税が10%にあがりましたね。9月末は駆け込み購入などが話題になりました。経済(お金)は皆が気にしているキーワードですよね。筆者も気になります。今回は経済とこどもの事故についてです。日本や多くの自由主義経済の国々の企業は、いかに製品を作るコストを下げるか、またいかにその製品を多く売ることが利益を上げることにつながります。コストを下げるのには部品の数や手間を省くことが近道ですし、製品を多く売るためにはその外観や機能を魅力的に見せることが近道になります。

「洗濯機の中に子どもが閉じ込められて、意識がない」と119番通報があった。警察によると、洗濯機の中からこの家に住む5歳男児を救出したが、搬送先の病院で死亡が確認された。洗濯機はドラム式で、発見当時、洗濯機は動いていない状態で、ドアは閉まっていた。男児に外傷はなく、窒息した時に出る症状が確認されたとい

う。発見当時、母親は外出中で、父親と男児は昼食後、2階の部屋で寝ていた。父親が起きたところ、男児の姿が見えなくなっていたという。

3年前には、ドアが閉じた洗濯機の中で7歳の男児がぐったりした状態で発見された。内部には取っ手などはなく、ドアは内部から開かない仕組みで、密閉された空間で窒息死したとみられる。



2018年報道の朝日新聞を一部改変

痛ましい事故ですね。こどもは狭いところに入りたがります。ドラム式洗濯機はさながら小さな家ですし、隠れるにはちょうどいい大きさです。内側から開かないなんて思いもしないですよ。この事故を受けて各家庭家電メーカーは斜めドラム洗濯機を内側から開きやすい形態に変えました。数は少ないが悲惨な事故を受けて企業が製品の改善をおこなった例です。ただし、白物家電が一般的に10年で寿命を迎える中で旧製品は内側からあかないままであり、旧製品を使っている家庭ではいつ同じ事故が起こるとも限りません。気をつけましょうね。

#### ・消費行動と安全

事例1：風呂上がり、祖母が3歳の孫にジュースと誤って缶入りチューハイを100ミリリットルほど飲ませた。点滴を打って治療した。

事例2：母親が兄を幼稚園に送っていている間に祖母がジュースと間違えて1歳男児に低アルコール飲料を飲ませてしまい、中毒症状になった。

事例3：ジュースと思って3歳の子どもが飲んだところ、アルコール飲料だった。夫が買ってきていた缶入り飲料であった。

こどもが間違えて低アルコール飲料を飲んで救急受診をする事故はなぜ起こるのでしょうか。次は商品の外観の魅力に関してのお話です。お酒を飲まれる方も飲まれない方もスーパーのお酒コーナーはみられたことがあるのではないのでしょうか。色とりどりの飲料缶が並んでいますね。大人はこれらがお酒ということを知っていますが、こども目線で見たときにはどうでしょうか？千葉大学の木平先生たちが16名の幼稚園児と小学生にジュースとアルコール飲料



の両方の缶を見せてどちらを飲みたいか聞いてみたところ、5名がアルコール飲料の缶を選んだという報告をしました。現行では低アルコール飲料の缶には図のようなマークが自主的に印字されて



いますが文字をまだ読めないこどもに対しては有効ではありません。ピクトグラム(絵)でわかりやすく表示するか、ジュースと紛らわしくないデザイン(アイデアは浮かびませんが)に変更することを企業に考えてもらいたいものです。

我々の社会は消費活動により経済が活性化しています。買ってもらうなければ企業の収益が上がらず、経済が回らないという社会の中で、内容や価格が同じようなものであれば商品のデザインで我々は消費行動が刺激されます。ここにこどもの安全を守るという要素をぜひとも法制化してもらえればもっといい世の中になるのかなと想像しています。我々医療機関はこのような事故を診たときに適切に報告して社会にこどもの安全を守る法制度ができるように刺激し続けることです。

そして皆さんができることは、このような危険を子供の手の届かないところに置くように管理することです。

